

■第3回リニア駅周辺整備デザイン会議における意見対応

項目	主なご意見(当日の課題)	取組方針
長野・伊那谷・飯田としての魅力	<ul style="list-style-type: none"> 魅力の定義を明確にすることも重要である。知事は「長野県の南の玄関口」、「長野県の玄関口」になり、この玄関口から伊那谷、長野県全体に広げていかなければならないと言っている。長野県としての位置づけも説明していくということを念頭に置く必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民ワークショップにおける意見等も含めて、県産の木材を用いて、日本の伝統技術を活かした大屋根が「森」のように南北に広く展開し、長野県駅のシンボルとしての風景をつくるよう設計プランを検討しています。 屋根下の空間は、伊那谷全体の様々な市民等の活動を可能とする「舞台」となるよう配置検討しています。 構造は、一般的な流通木材を用いることで、林業サイクルと連携した資源循環型のメンテナンスや維持管理を可能とするよう検討しています。
	<ul style="list-style-type: none"> 飯田のための駅ではなく、伊那谷全体の駅となる。伊那谷全体への説明をどのように行い、理解を得ていくのが心配である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 意見として挙げられたことを総花的に反映するのではなく、飯田の特色が出るような特徴的なソフトが展開される空間としていただきたい。特徴がないと通過されてしまうのではないかと心配している。 	
地域と連携した広場空間	<ul style="list-style-type: none"> 交流広場とコミュニティ広場が一体になっているが、コミュニティ広場は、分断される地区のコミュニティの維持に役立てるため、存在感のある広場にしていきたい。この点については、地域と協議をしながら検討を進めていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある広場空間に向けて、地域住民や民間事業者等による活用方策を検討していきます。
	<ul style="list-style-type: none"> 交流広場は良いと思う。オンリーワンの空間を目指してほしい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 土地を提供する人たちに配慮しながら今後も検討を進めていただきたい。 	
バリアフリー等への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 雪や風の対策により、濡れず、滑らず乗り換えられるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 高架下空間については、南北の連続性を確保しつつ、空調設備を備えた分棟型の建築物を計画的に配置し、暑さ・寒さ対策を検討しています。 南北に大屋根を配置し、雨、雪等に対応した天候バリアフリーの空間創出を検討しています。 高架下空間を中心として、デジタルサイネージ・多言語案内等による外国人を含めたインフォメーションを検討しています。
	<ul style="list-style-type: none"> 空間のイメージに対する共通認識が図られていないことが心配である。例えば、広場と駅舎の境界に仕切りができるかどうかで、高架下の利用や暑さ・寒さ対策の方法も変わってくる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> お客様目線のサービス(雨・雪への対応等)が重要と考える。 季節を問わず来訪者に「良い環境」と思ってもらえる駅とする必要がある。外から訪れる人にとっては、冬は寒いという印象が強いため、乗換え動線上での冬場の対応策を考えていただきたい。 外国人への対応を考慮したユニバーサルデザインとしていただきたい。 	
必要となる交通機能	<ul style="list-style-type: none"> トランジット機能と交流機能の両立について、広場に議論が片寄っている印象である。にぎわい交流機能が具体化していないため、交通との両立の議論が進まないと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民ワークショップを通じた広場の議論と、バス等の交通事業者へのヒアリング結果を踏まえた設計プランの検討を進めています。 乗換新駅の設置に向けて、継続的に南信州広域連合、JR東海等と協議を進めていきます。
	<ul style="list-style-type: none"> 乗換新駅まで信号無しで行ける専用のルートができると良いと考える。 	

項目	主なご意見(当日の課題)	取組方針
駅周辺の利活用	<ul style="list-style-type: none"> 何を求めて、何をするかということに対する共通認識が図られていないため、フィロソフィーが重要と感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、駅周辺区域で提供するコンテンツについては、利便性や魅力的な空間に向けて重要な要素となります。そのため、民間事業者との意見交換会を行い、将来の施設運営事業者や提供可能なコンテンツの具体検討を進める予定です。
	<ul style="list-style-type: none"> この駅のコンセプト(誰のために、何のためにこの広場があり、どう使われていくのか)を共有することが重要である。また、コンテンツが明らかになっていないこともイメージを共有できていない要因なのではないかと考える。 	
駅周辺の景観	<ul style="list-style-type: none"> 南北どちらが駅の顔なのかが分からない。北側を顔とするのであれば、景観はつくられたものが気になる。南側には「これがあるから来る」というものができるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅の北側、南側を繋ぐ木格子の大屋根を配置し、南北それぞれの景観づくりを検討しています。 立体駐車場については、2F(屋上有)として検討をしています。 駅周辺の景観づくりについては、別途、都市計画法の地区計画制度等を活用し、景観形成を図る予定です。
	<ul style="list-style-type: none"> 来訪者の視点に立つと、リニア駅周辺の景観を良くするだけでなく、ごみ、看板等の景観向上の取組みを伊那谷全体、長野県全体に広げる必要があると考える。 	
土曾川横断道路	<ul style="list-style-type: none"> 土曾川横断道路はイメージの検討が先行しているが、技術的な検討も要するため、飯田建設事務所と協議、調整を進め、安全面も不安が無いような施設としていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3回デザイン会議以降、土曾川横断道路等について関係行政機関と協議をしています。今後も施設整備の実現に向けて協議を行う予定です。

※学識者からの意見については、別途、学識者専門会議、個別協議にて実施していますので省略しています。